【昭和8年7月19日受付】

伊豆七島及び小笠原諸島に於ける白癬の研究

千葉醫科大學皮膚泌尿器科教室(主任 佐藤 教授)
海　老　原　正　順

目　次

I. 緒　言
II. 總　論
1. 調査概要
2. 研究方法
3. 諸島の地理概要
III. 臨床的研究
1. 頭部淺在性白癬
2. 頭部深在性白癬
3. 小水疱性斑狀白癬
4. 輪廓狀濕疹性白癬
5. 汁疱狀白癬
6. 爪甲白癬
IV. 原因的研究
1. 臙脂色菌
2. 猩紅色菌
3. 菫色菌
4. 黍滑菌
V. 地理的研究
1. 本地方の白癬概觀
2. 他地方に於ける研究との比較
3. 概　括
VI. 總括及び結論

I. 緒　言

余は從來軍隊に於ける白癬の研究に從事したるが，昭和6年春千葉醫科大學より標題諸島の皮膚糸狀菌病研究を囑託せられ初め夏季約1ヶ月半に亘り各島に出張し，次に冬季約1週間再び八丈島に渡り研究する所ありたるを以て，茲に其の結果を報告せんとす。

扨本邦に於ける白癬研究は晩近各地方の精細なる報告あり。北海道は高橋信吉氏(1928)，仙臺は竹谷氏 (1925)，東京は山田 (1912)，高杉 (1918)，上林(1918, 1919)，小池，三島 (1915)，太田 (1922)，河崎 (1922, 1923)，長谷川，北村 (1930)，中村 (1932)，藤井(1932)，高橋吉定 (1932) の諸氏，千葉は尾形氏 (1929)，新潟は竹之內氏 (1925)，名古屋は楠 (1913, 1914)，谷口 (1923, 1924)，両氏北陸は高橋幸三氏 (1929, 1931)，中國は高須 (1932) 及び佐藤 (1932) の両氏，四國は藤井氏 (1931)，九州は加藤 (1926)，森山 (1926) 両氏，琉球は加藤 (1926)，上林，德田 (1926) の諸氏，臺灣は長谷川氏 (1927)，京城は高橋信吉氏 (1925)，滿州は太田 (1921) 及び北村，寺井 (1933) の諸氏，南支那は殷氏 (1930)，南洋廳諸島は高杉氏 (1918) 等の諸調査ありて，研究全國に普き感あり。然れども未だ標題諸島に於ては檢査を行はれたることなし。本諸島は一部分は都門より遠からざるも，一部分は甚しく遠

隔し且つ後述する如く，氣象，人文地理等の上に於て特殊なる關係にあり。他地方に比して特殊の知見を得るに非ざるや，敢て研究に當れる所以なり。

II. 總　　論

1. 調査概要

余は研究材料蒐集の爲め主として小學校兒童を調査したり。是，皮膚糸狀菌病は小學校兒童の年輩に比較的多數なると一方小學校には多人數集合しありて調査に容易なるとの爲めなり。

其の時期は夏季及び冬季の2回にして，夏季は7月20日東京出發以來8月4日歸着する迄40餘日に及びたるも，航海日數多くして實際に患者に接し得たるは19日に過ぎず。冬季は八丈島のみにして，12月13日出發同月21日歸着中4日間は患者を檢査したり。

其の調査を表示すれば即ち第1表の如くにして，島數12，校數26，調査總人員5341にして，其の患者數 243，內培養を試みたるもの 168，其の結果陽性成績を得たるもの87例なり。而して患者數を男女別に觀れば，男子 189 に對して女子54にして男子の患者は著しく多數なり。

第 1 表　調査概觀表

疾病別及び罹患率 / 檢査人員 / 小學校別		頭部淺在性白癬	頭部深在性白癬	小水疱性斑狀白癬	輪廓狀濕疹性白癬	汗疱狀白癬	爪甲白癬	患者計	男女別患者數	罹患率	培養例	陽性例
差木地尋常高等小學校	376	6	2		1			9	男 8 女 0	2.13	9	5
野增尋常高等小學校	123	3	1	2 (1)		(1)		6 (2)	男 6 女 0	4.88	6	4
元村尋常高等小學校	323	3		(1)				3 (1)	男 3 女 0	0.93	3	1
岡田尋常高等小學校	96	3	1					4	男 4 女 0	4.17	4	2
泉津尋常高等小學校	89	1						1	男 2 女 0	2.25	1	0
波浮尋常高等小學校	184	1						1	男 1 女 0	0.54	1	1
大島小學校計	1191	17	4	2 (2)	1	(1)		24(3)	男24 女 0	2.02	24	13
若郷尋常小學校	83	1						1	男 1 女 0	1.20	1	1
本村尋常高等小學校	514	6		2 (1)	1			9 (1)	男 9 女 0	1.75	9	5

新島小學校計	597	7		2 (1)	1			10 (1)	男10 女 0	1.68	10	6
式根尋常小學校	90							0	男 0 女 0	0	0	0
神津尋常高等小學校	378	1	1					2	男 2 女 0	0.53	2	0
神着尋常高等小學校	232	2						2	男 2 女 0	0.86	2	0
伊豆尋常高等小學校	73							0	男 0 女 0	0	0	0
伊ヶ谷尋常高等小學校	161	6			1		(1)	7 (1)	男 5 女 2	4.35	5	2
阿古尋常高等小學校	237	2						2	男 2 女 0	0.84	2	1
坪田尋常高等小學校	152							0	男 0 女 0	0	0	0
三宅島小學校計	855	10			1		(1)	11 (1)	男 9 女 2	1.29	9	3
御藏島尋常高等小學校	74	1		1				2	男 2 女 0	2.70	2	0
大島支廳管下合計	3185	36	5	5 (3)	3	(1)	(1)	49 (5)	男47 女 2	1.54	47	22
三根尋常高等小學校	537	31		1 (1)	1		(1)	33 (2)	男23 女10	6.15	26	17
大賀郷尋常高等小學校	503	24	2	(1)		1	1	29 (1)	男21 女 8	5.77	18	11
樫立尋常高等小學校	207	21	1	1			2 (2)	24 (2)	男18 女 6	11.59	10	9
中之郷尋常高等小學校	135	19	1	1	1	1	1	24	男17 女 7	17.73	15	10
末吉尋常高等小學校	203	34		1 (1)		1	(1)	36 (2)	男30 女 6	17.73	17	8
八丈島小學校計	1585	129	4	4 (3)	2	3	4 (4)	146(7)	男109 女 37	9.21	86	55
青ヶ島小學校	71	17			2		(1)	19(1)	男12 女 7	26.76	10	2
八丈支廳管下合計	1656	146	4	4 (3)	4	3	4 (5)	165(8)	男121 女 44	9.96	96	57
大村尋常高等小學校	332	5	1	2 (1)	1			9 (1)	男 5 女 4	2.71	7	3
扇浦尋常高等小學校	132			1	1			2	男 2 女 0	1.52	2	0

父島小學校計	464	5	1	3 (1)	2			11 (1)	男 7 女 4	2.37	9	3
沖村尋常高等小學校(母島)	251	3	1	1 (1)	1	2		8	男 6 女 2	3.19	6	1
石野尋常小學校(北硫黄島)	21	3						3	男 3 女 0	14.29	3	2
大正尋常高等小學校(硫黄島)	264	4		1		2		7	男 5 女 2	2.65	7	2
小笠原支廳管下合計	1000	15	2	5 (2)	3	4		29 (2)	男21 女 8	2.90	25	8
總計	5841	197	11	14 (3)	10	7 (1)	4 (6)	243 (15)	男189 女 54	4.16	168	87

備考　1. 括弧内數字は1人にて2症を有するものゝ副症を擧げたるものなり
　　2. 本表の島は北より南に向ひ位置の順に記載したり

尙ほ余は私かに黄癬の存在を期待しありたるに，檢査中之を發見することなかりし爲め，内心焦慮したるも，後，千葉醫科大學及び福岡醫科大學等の皮膚科に於ける統計に本疾患無きを知り宜なるかなと感じたり。

2. 研究方法

研究方法は近時發表せられたる先進諸家の方法を大体踏襲したり。其の大要は余の他の論文（軍隊に於ける白癬の研究）中に述べたるを以て，茲には之を省略す。

3. 諸島の地理概要

余が調査せるは標題の如く，伊豆七島及び小笠原諸島にして，行政上の區劃に依れば，東府廳下の大島支廳，八丈支廳及び小笠原支廳管下の住民ある島嶼の殆んど全部なり。

本諸島は北緯24度14分(南硫黄島)乃至34度48分(大島)，東經139度37分(神津島)乃至142度11分(父島)の間に於て太平洋上に散在する島嶼にして氣候温暖且つ濕氣に富む。

交通は大島の朝夕に汽船出入ある他は，隔日，10日目乃至1年4回等の寄港あるのみにして極めて不便なる爲め本州との間の往復甚だ稀なり。

島の土質は火山灰なる故，地下水の瀦溜する處少なく，井戸あるは大島及び新島等に過ぎず。青ヶ島，北硫黄島及び硫黄島等は飲用及び雜用水を全く天水に仰ぐ狀況にして，其の他の島に於ても雨水を利用すること尠からず。但し八丈島及び神津島に於ては，山間よりの溪流を應用し水道を設備せる所あり。

醫師は大なる島には1名乃至數名在住するも，小なる青ヶ島及び北硫黄島等には醫を業とするもの無き有樣にして，從って衛生施設は良好なりと謂ふ能はざる狀況なり。

III. 臨 床 的 研 究

1. 頭部淺在性白癬

i. 症　　例

余が檢査したる頭部淺在性白癬は197例にして，其の内138例に就き培養を試み，75の陽性成績例を得たり。之を病原菌種別に表示すれば下の如し。(第2, 3, 4表)

第 2 表　　脂色菌培養頭部淺在性白癬例表

番號＼區分	姓　名	年齢	性	住　所	症　狀
1	小○登○○	11	男	大島差木地村	頭髮部小指頭乃至示指頭大數ヶの灰白色鱗屑斑あり，斑内には灰白色の纖弱なる毛髮あり。
2	木○初○	12	”	”	顱頂部示指頭大數ヶの灰白色斑あり。
3	吉○正○○	11	”	新島本村	顱頂及び後頭部に示指頭大斷髮斑3ヶあり，尙ほ後頭部に示指頭大禿髮二ヶ所を存す。
4	堀○正○	10	”	”	顱頂部及び後頭部に拇指頭大灰白色鱗屑斷髮斑數ヶを存す。
5	北○寛○	8	”	新島若郷村	顱頂部鷄卵大灰白色鱗屑斑を存す。
6	菊○英○	8	”	八丈島中之郷村	全頭部に亘り小指頭大乃至拇指頭大灰白色鱗屑斑無數に散在す。鱗屑は比較的厚くして苔狀なり(第1圖)。
7	中○亜○○	10	”	八丈島末吉村	後頭部に示指頭大灰白色鱗屑斑あり，灰白色鞘を有する病毛あり。
8	菊○進	11	”	”	顱頂部に拇指頭大灰白色の鱗屑斑あり，一部分には垢樣褐色の薄き痂皮を附着す。

ii. 症 狀 概 觀

他覺的症狀。　余が頭部淺在性白癬より培養したる菌種は脂色菌，菫色菌及び禿滑菌の3種なり。之等に因りて起る症狀を概觀すれば，病竈部に灰白色の限局性鱗屑面を生じ，其の部毛髮は多くは菌の侵す所となる，少くも毛髮の一部分は侵されて纖細なる白髮の如き觀を呈す。此の病毛は折れ易く且つ脫け易し。或は既に自然に折れて其の根部のみ僅かに表皮上に立てるを見るべし。之等患者中には往々にして被髮部に點々示指頭大乃至拇指頭大の限局性禿髮部を存し，病症經過中に炎症々狀を起し，深在性白癬の狀を呈したるには非ざるやを疑ふべきものあり。

而して3種の菌中脂色菌に因り起れるものは，病竈部に往々痂皮を形成する傾あり，又炎症々狀を起し易き感あり(第1圖)。菫色菌及び禿滑菌に因り起れるものゝ間には差異を認め難く，何れも鱗屑形成と毛髮侵襲とのみにして，發炎及び結痂の傾向少なきものゝ如し(第2-5圖)然れども此の菫色菌及び禿滑菌に因りて起れるものに於ても，南方小笠原諸島の患者は，病竈

第 3 表　菫色菌培養頭部淺在性白癬例表

番號＼區分	姓名	年齢	性	住所	症狀
1	倉○虎○	12	男	大島元村	顱頂部小兒手掌大地圖狀に褐色鱗屑あり，一部分病毛あり。
2	山○福○	11	〃	大島野增村	示指頭大數ヶの灰白色鱗屑斑あり，被鞘毛髮あり折れ易し。
3	山○喜○○	10	〃	大島野增村	后頭部に示指頭大乃至拇指頭大鱗屑斑數ヶ存す
4	奥○友○	10	〃	大島波浮港	后頭部拇指頭大の部分芽胞髮あり。
5	坂○政○	9	〃	大島岡田村	顱頂部一錢銅貨大の屑鱗斷髮斑。
6	峰○未○	10	〃	大島岡田村	小指頭大の鱗屑斑及び同大の禿髮部何れも全頭部に10數ヶ散在す。
7	植○彌○	9	〃	新島本村	小指頭大乃至拇指頭大の鱗屑斑及び禿髮斑7，8ヶ全頭部に散在す。
8	長○○時○	14	〃	三宅島伊ヶ谷村	顱頂部に1ヶ梅實大の部分垢樣苔狀の鱗屑あり被鞘毛髮も存す。
9	長○○辰○	14	〃	三宅島伊ヶ谷村	示指頭大灰白色の鱗屑斑全頭部に散在，右中環指の爪は表面凹凸不平なり。
10	宮○重○	10	〃	三宅島阿古村	示指頭大灰白色鱗屑斑，被鞘毛髮あり折れ易し。
11	淺○○信	8	〃	八丈島三根村	全頭部に小指頭乃至示指頭大の數ヶの鱗屑斑散在，患部の毛髮は折れ去りあり。
12	兒○鶴○	8	〃	〃	全頭部5，6ヶ示指頭大薄き痂皮樣鱗屑存す，鱗屑を剝離すれば毛髮も共に拔去せらる。
13	石○○雄	11	〃	〃	大豆大乃至小指頭大20數ヶの灰白色鱗屑斑全頭部に散在，患部の毛髮は白く纖弱なり。
14	高○近	13	〃	〃	前頭部鷄卵大の部分白色鱗屑斑あり，斑內頭髮稀疎。
15	奥○輝○	10	〃	〃	小豆大乃至小指頭大の白色鱗屑斑數ヶ全頭部に散在,斑內頭髮折れ易く脫け易し,禿髮部も存す。
16	鈴○輝○	14	〃	〃	前頭部に示指頭大の灰白色鱗屑斑數ヶ。
17	鈴○明	8	〃	〃	顱頂部一面の白色鱗屑斑，其の他全頭部に小指頭大白色鱗屑斑散在す。
18	長○正○	8	〃	〃	20數ヶの小指頭大白色鱗屑斑及び同數同大の禿髮斑全頭部に散在す。
19	笹○延	11	〃	〃	10數ヶの小指頭大白色鱗屑斑全頭部に散在，被鞘白髮存す。
20	持○秋○	10	〃	〃	全頭部に小指頭大灰白色鱗屑斷髮斑10數ヶ散存在。
21	淺○○春	12	〃	〃	顱頂部に1ヶ小指頭大灰白色鱗屑斑あり，斑內に僅かに芽胞髮あり。
22	前○昌○	11	〃	〃	顱頂部に數ヶ示指頭大の鱗屑斑あり。芽胞髮を存す。

23	淺○榮○	8	男	八丈島三根村	全頭部に示指頭大の灰白色鱗屑斑あり，芽胞髮も存す。
24	淺○文○	10	男	〃	顱頂部に小指頭大乃至拇指頭大の灰白色鱗屑斑4,5ヶを存す，斑内には芽胞髮を存す。
25	小○○常○	10	〃	〃	顱頂部一面に地圖狀に不正形なる灰白色鱗屑斑を存す。
26	石○○則	11	〃	八丈島大賀郷村	大豆大乃至小指頭大の鱗屑斑10數ヶ全頭部に散在す,病變部の髮毛は白變し脫け易く折れ易し。
27	奥○定○	9	〃	〃	大豆大乃至小指大の鱗屑斑20數ヶ全頭部に散在す，往々痂皮を存する病竈あり，痂皮を除けば毛髮も共に脫す。
28	菊○忠○	8	〃	〃	顱頂部に一ヶ小指頭大の白色鱗屑斑あり，芽胞髮を見る。
29	西○つ○	8	女	〃	顱頂部に3ヶ示指頭大の灰白色鱗屑斑あり，病竈部には折れて短き毛髮あり。
30	赤○中○	8	男	〃	顱頂部手掌大の部分灰白色の鱗屑斑,毛髮稀疎。
31	菊○俊○	9	〃	〃	全頭部一面に鱗屑あり，頭髮稀疎(第2圖)。
32	淺○み○	9	女	〃	顱頂部小指頭大乃至拇指頭大の褐色鱗屑4,5ヶ芽胞髮を存す。
33	金○悅	9	〃	〃	顱頂部及び後頭部に小指頭大鱗屑4.5ヶ
34	只○春○	10	男	〃	大豆大乃至拇指頭大の灰白色鱗屑斑20數ヶ全頭部に散在す，芽胞髮多數(第3圖)。
35	山○善○	9	〃	八丈島樫立村	小指頭大褐色鱗屑斑10數ヶ全頭に散在す，芽胞髮を見る。
36	山○義○	10	〃	〃	全頭部に小指頭大僅に鱗屑を存する斑無數に散在す。
37	山○幸○	11	女	〃	顱頂部より顳顬部に亘り灰白色鱗屑斑，示指頭大のもの10數ヶ散在。
38	峰○清○	11	男	〃	全頭部一面に鱗屑斑散在し，芽胞髮あり，右示指爪甲白癬も存す(第4圖)。
39	石○久○	11	〃	〃	顱頂部拇指頭大灰褐色苔狀鱗屑斑數ヶ。
40	矢○重○	11	〃	〃	顱頂部より右顳顬部に亘り示指頭大灰白色鱗屑斑數ヶを存す。
41	山○方○	8	〃	八丈島中之郷村	全頭部に示指頭大鱗屑斑10數ヶ散在す。
42	畑○光○	8	〃	〃	全頭部に大豆大乃至小指頭大鱗屑斑20數ヶ散在す，芽胞髮を混在す。
43	菊○榮○	8	〃	〃	全頭部一面示指頭大灰白色鱗屑斑を無數に散在す。鱗屑稍々厚く苔狀を呈す。
44	山○良○	8	〃	〃	全頭部に指示頭大乃至拇指頭大の灰白色鱗屑斑及び禿髮部各々5,6ヶを存す。
45	山○千○○	9	〃	〃	後頭部に拇指頭大灰白色鱗屑斑あり芽胞髮を見る。

46	山○一○	10	男	八丈島中之郷村	顱頂部及び後頭部に示指頭大灰白色鱗屑斑あり芽胞髪多數なり。
47	山○高○	12	〃	〃	顱頂より額顳に亘り示指頭大數ヶの灰白色鱗屑斑。
48	山○弘○	10	〃	〃	全頭部一面に亘り灰白色鱗屑あり，頭髪も著しく稀疎なり。
49	冲○シ○	8	女	八丈島末吉村	顱頂部一面に灰白色鱗屑斑を存す。
50	沖○高○	10	男	〃	顱頂部に數ヶ小指頭大の灰白色鱗屑斑，芽胞髪を見る。
51	沖○俊○	12	〃	〃	全頭部に示指頭大灰白色の鱗屑斑10數ヶ散在，芽胞髪あり。
52	沖○榮○	12	〃	〃	後頭部に示指頭大の芽胞髪斑，鱗屑僅かなり。
53	淺○瀧○○	14	〃	〃	全頭部に示指頭大數ヶの灰白色鱗屑斑散在す。
54	佐○○範○	10	〃	青ケ島	顱頂部示指頭大4,5ヶ鱗屑斑あり，鱗屑苔狀を呈す。右環指爪甲白癬あり。
55	佐○○哲	11	〃	〃	顱頂部より后頭部に亘り小指頭大乃至指示頭大鱗屑斑10數ヶ散在す。
56	ぢ○○げ○	9	〃	父島大村	顱頂部より後頭部に亘り小指頭大鱗屑斑7,8ヶ散在す。鱗屑は垢様にして毛髪と共に固着せるものあり。
57	和○正○	9	〃	〃	顱頂部に梅實大鱗屑斑3ヶ，何れも垢様苔狀の薄き痂皮あり。
58	笹○好○	8	〃	〃	全頭部に10數ヶ灰白色鱗屑斑散在す，芽胞髪あり。
59	佐○○武○	7	〃	母島沖村	全頭部に10數ヶ示指頭大の鱗屑斑散在す，芽胞髪存す。
60	山○勇	9	〃	硫黄島	顱頂部より後頭部に亘り示指頭大鱗屑斑散在す，鱗屑は垢様苔狀に結痂せるもあり。
61	竹○行○	8	〃	〃	全頭部に7,8ヶ示指頭乃至拇指頭大鱗屑斑散在す，芽胞髪存す。

第4表　禿滑菌培養頭部淺在性白癬例表

區分／番號	姓名	年齢	性	住所	症狀
1	佐○進	8	男	大島差木地村	後頭部拇指頭大の苔狀褐色鱗屑斑。
2	菊○仁○	9	〃	八丈島三根村	小指頭大灰白色鱗屑斷髪斑7,8ヶ全頭部に散在
3	菊○忠○	8	〃	八丈島大賀郷村	顱頂部に1ヶ小指頭大鱗屑斑あり，芽胞髪存す
4	佐○善○	8	〃	八丈島樫立村	全頭部一面に鱗髪あり，芽胞髪多數(第5圖)。
5	古○則○	9	〃	北硫黄島	小指頭大の芽胞髪斑全頭に散在す，鱗屑極めて僅かなり。
6	古○○博	8	〃	〃	小指頭大乃至拇指頭大芽胞髪の斑10數ヶ散在。

第 5 表　頭部淺在性白癬原因菌統計表

報告者	報告年	研究地＼菌種	岩穴狀菌	結節狀菌	臙脂色菌	腦廻轉狀菌	衣襞狀菌	小芽胞菌 ウィルヒオー氏	星芒狀菌	放射狀菌	第2型 趾間菌變	猩紅色菌	愛媛菌	石膏樣菌	白樣黃癬菌	日本小芽胞菌	菫色菌	禿滑菌	栗色菌	黑色菌	計
山田	1912	東京	1	1										1		31					34
楠	1913	名古屋		5													18				23
楠	1914	名古屋		9													15	1			25
高杉	1918	東京														9					9
上林	1919	東京				1										6	3				10
太田	1921	滿州					1		4						1	17	2				25
上林	1921	東京														10					10
河崎	1923	東京								3						14	8				25
谷口	1924	名古屋																2			2
高橋信	1925	朝鮮														9					9
竹谷	1925	仙臺		9				1								32	7	2			51
竹谷	1926	仙臺										1									1
加藤	1926	九州			5							1				36	13	27			82
加藤	1926	琉球										1				12	2	12	1		28
森山	1926	五島			4						1					9	8	14			36
森山	1926	長崎			1				1							14		6			22
竹之內	1926	新潟				6										39	26	3			74
長谷川	1927	臺灣			6											38	30				74
森山	1927	南京															4				4
上林 德田	1927	琉球														20	9	14			43
高橋信	1928	札幌														24	1				25
高橋幸	1929	北陸			3							1				5	2				11
赤木	1929	福岡										1									1
尾形	1929	千葉			17				1							20	71	14		1	124
殷	1930	南支那														12	10				22
藤井	1931	四國			5				8				1			83	5	1			103
高橋幸	1931	北陸			7							3				141	42	21			214
佐藤	1932	中國										1									1
高須	1932	中國			2				2			5				56	17	6			88
藤井	1932	東京										1									1
高橋吉	1932	東京														3	6	1			10
小計			1	24	50	7	1	1	16	3	1	15	1	1	1	640	299	124	1	1	1187
海老原	**1933**	**伊豆七島 小笠原諸島**			**8**												**61**	**6**			**75**
合計			1	24	58	7	1	1	16	3	1	15	1	1	1	640	360	130	1	1	1.262

部に堆垢狀苔樣の痂皮狀鱗屑を作り易く，北方大島附近の病狀に比し，重症なる感あるは，本菌種培養時比較的高温に於て，發育良好なると對照し，興味ある事實なりとす。

自覺的症狀。 自覺症は之を患兒に問へば何れも瘙痒なしと答ふ。然れども，校庭に於て嬉戯の間往々頭部に手を加ふるものあるを觀れば，多少の瘙痒を存するものと判斷し得べし。

iii. 原因菌調査

從來我國に於て頭部淺在性白癬より證明せられたる菌種と比較すれば第5表の如し。

即ち本疾患より證明せられたる菌種は18種，其の株數は 1300 に垂んとし，報告回數30餘回に及ぶ。而して其の內，株數10以上に達するものは臙脂色菌，星芒狀菌，猩紅色菌，日本小芽胞菌，菫色菌及び禿滑菌の6種なり。(結節狀菌は姑く之を除く)。報告回數より觀れば日本小芽胞菌(23回)，菫色菌(22回)，禿滑菌(15回)，臙脂色菌(10回)，猩紅色菌(9回)，及び星芒狀菌(5回)の順にして，他は何れも4回以下 1,2 回に過ぎず。されば我國に於ける本症の病原菌は，培養株數及び報告回數の両方面より前記6菌種を主要なるものと判斷するを得べし。特に近年の研究に於ては，前記6菌種又は其の變種のみを證明するは注目に値すべし。尙ほ結節狀菌は培養株數は稍々多きも，報告回數少く，殊に輓近白癬研究進み菌種の闡明せられたる時に培養の跡を絶ちたるを顧慮すれば，本症の主要病原菌とは認むる能はず。

余の培養したる菌種は臙脂色菌，菫色菌及び禿滑菌の3種にして，何れも本症の主要病原菌なり。尙ほ右の內菫色菌が大部分を占むることゝ，日本小芽胞菌が他地方に於ては多數に證せらるゝにも拘はらず，本地方に皆無なることゝは從來の研究に比し特異なる點なりとす。

2. 頭部深在性白癬

i. 症　　例

頭部深在性白癬患者は計11名存したり。其の內5例に就き培養を試み3例に於て菌の發育を見たり。即ち第6表の如し。

ii. 症狀概觀

他覺的症狀。 余の菌を培養せる深在性白癬は3例にして，臙脂色菌1例と菫色菌2例なり。而して臙脂色菌に因りて起れる本症は，病竈部一般に痂皮を以て被はれ，之を除けば皮膚の乳嘴著しく延長し鷄冠の如く粗糙なる面にして浮腫あり(第6圖)。菫色菌に依るものは，多數の淺在性白癬病竈中の一箇が炎症々狀を起せるものにして(第7圖)，前者に比し症狀輕易なるを見る。

自覺的症狀。 何れも多少の疼痛を訴ふるのみなり。

iii. 原因的調査

從來我國に於て頭部深在性白癬より證明せられたる菌種と比較すれば第7表の如し。

即ち本疾患より證明せられたる菌種は10種，株數は80餘に過ぎず。而して其の內報告回數

第 6 表　頭部深在性白癬例表

番號＼區分	姓　名	年齢	性	住　所	菌　種	症　狀
1	木 ○ 正 ○	10	男	大島差木地村	臙脂色菌	前頭部に拇指頭大乃至鷄卵大の限局性禿髮及び結痂を主徵とする病竈あり，痂皮を除けば毛髮も共に脫し，其の部の乳嘴は粗糙にして鷄冠狀を呈し，浸潤腫脹あり，多少の膿汁を壓出す(第 6 圖)。
2	佐 ○ ○ 重 ○	14	〃	八丈島樫立村	菫色菌	顱頂部より後頭部に亘り示指頭大灰白色鱗屑斑30數ヶあり，頸部の 1 ヶは痂皮を作り腫脹化膿あり(第 7 圖)。
3	山 ○ 富 ○	8	〃	八丈島中之郷村	菫色菌	顱頂部に10數ヶ示指頭大の鱗屑斑あり，內 2,3 ヶは痂皮附着し之を除けば化膿腫脹あるを見る。
4	藤 ○ 勇 ○	11	〃	大島差木地村	菌種不明	顱頂部に於て示指頭大數箇の鱗屑斑あり內 2 ヶは痂皮を附着し其の下に腫脹化膿あり。
5	柴 ○ 米 ○	12	〃	大島野增村	〃	前頭部に示指頭大褐色結痂疹數ヶ散在す痂皮を除けば皮膚の腫脹化膿あり，芽胞髮も存す。

及び培養株數の両方面より觀察して，本症の重要なる原因菌種と見るべきは星芒狀菌，猩紅色菌，日本小胞菌及び菫色菌の 4 種にして，概ね頭部淺在性白癬の菌種に一致するを知る。唯々本症に於ては星芒狀菌の檢出頻度比較的高きは特色ある點なれども，本菌種の毒性强きことを顧慮すれば，斯かる結果を來すは當然なりと謂ふべきか。

而して余の檢出せる菌種は，臙脂色菌及び菫色菌の 2 者にして，後者は從來屢々報告せられたることあるも，臙脂色菌に因る本症は余の本例を以て第 2 例となす。

3. 小水疱性斑狀白癬

i. 症　例

余が檢査したる小水疱性斑狀白癬患者は14名あり。尙ほ其の他に頭部淺在性白癬其の他の患者にして本症をも兼發せるもの 8 名あり。此の22名中14例より病原材料を採取し培養を試みたるに 4 例に於て菌を證明したり，即ち第 8 表の如し。

ii. 症狀概觀

他覺的症狀。 本症患者は前記の如く22例にして何れも定型的小水疱性斑白癬の症狀を呈す。小水疱又は小丘疹密布し多少の落屑あり。菌種は臙脂色菌(第 8 圖)，及び猩紅色菌の 2 種にして，菌種に依る差異は特に擧ぐる程ならず。

自覺的症狀。 何れも瘙痒を訴ふるも激甚堪へ難しと稱するものなし。

iii. 原因菌調査

從來我國に於て本症より培養せられたる菌種を蒐錄比較すれば第 9 表の如し。

第 7 表　頭部深在性白癬原因菌統計表

報告者	報告年	菌種／研究地	臙脂色菌	顆粒狀菌	星芒狀菌	放射狀菌	穀粉狀菌	猩紅色菌	石膏様菌	日本小芽胞菌	菫色菌	禿滑菌	計	備考
小池	1915	軍隊（東京）							3				3	
三島														
上林	1923	東京		2									2	内1例は毳毛部深在性白癬
高橋信	1923	東京			1								1	毳毛部深在性白癬
河崎	1923	東京		1		1				3			5	
高橋信	1925	朝鮮								2			2	
竹谷	1925	仙臺								1			1	
加藤	1926	九州								3			3	
加藤	1926	琉珠								4	2	4	10	
田代	1926	岡山			1								1	星芒狀菌及び日本小芽胞菌の各1例は毳毛部深在性白癬
竹之内	1926	新潟			4			1		3			8	
長谷川	1927	臺灣								1	2		3	
小池藤	1927	岡山									1		1	
高橋信	1928	札幌					1			1			2	
森山	1929	長崎								1			1	
高橋幸	1929	北陸								1	1		2	
尾形	1929	千葉			2			1		1	1		5	
高須	1930	東京							1				1	
中村	1930	東京						1					1	
藤井	1931	四國			2					8	1		11	
高橋幸	1931	北陸	1		2	1				4	2		10	菫色菌の内1例は寄生性毛瘡
佐藤	1932	中國			1								1	
高須	1932	中國			1								1	
藤井	1932	東京						4					4	
高橋吉	1932	東京			1						1		2	
小計			1	3	15	2	1	7	4	33	11	4	81	
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**	**1**								**2**		**3**	
合計			2	3	15	2	1	7	4	33	13	4	84	

即ち本症より證明せられたる菌種は14，其の培養株數は 180 餘なり。而して報告回數及び培養株數より判斷して，本症の主要病原菌とすべきは臙脂色菌，星芒狀菌，猩紅色菌，日本小芽胞菌，菫色菌及び禿滑菌の6種にして，殊に猩紅色菌は最も多く，日本小芽胞菌之に次ぐは頭部白癬に比し異色ありと謂ふを得べし。

而して余の培養せる菌種は，臙脂色菌及び猩紅色菌にして，何れも本症病原菌として多數

第 8 表　小水疱性斑狀白癬例表

番號＼區分	姓　名	年齢	性	住　所	菌　種	症　狀
1	森○藤○○	11	男	大島野增村	臙脂色菌	頸部に拇指頭大の小水疱及び鱗屑より成る斑數ヶ散在，頭部には灰白色鱗屑斑10數ヶ散在す。
2	永○　新	13	〃	〃	猩紅色菌	背部に手掌三倍大の部分一面に小水疱及び鱗屑より成る病竈あり。瘙痒を訴ふ。
3	釜　秋　○	10	〃	新島本村	臙脂色菌	頸部に4,5ヶ示指頭大の小水疱及び鱗屑混在する病竈あり，頭部には示指頭大20數ヶの鱗屑斑散在す(第8圖)。
4	前○繁○	9	〃	〃	猩紅色菌	左上膊に手掌大の部分小水疱及び鱗屑混在し瘙痒を訴ふ。
5	廣○一○	8	〃	御藏島	菌種不明	左前膊屈側に1ヶ胡桃大の鱗屑斑あり，邊緣には小水疱連亘し多少瘙痒あり。
6	菊○わ○	13	女	八丈島三根村	〃	右頸部に一錢銅貨大楕圓形の小水疱連環2ヶを存す，瘙痒あり。
7	佐○重○	12	男	八丈島樫立村	〃	背面に手掌大不正楕圓形白色鱗屑斑あり，邊緣には小水疱連亘す。頭部淺在性白癬も存す
8	川○末○	15	〃	八丈島中之郷村	〃	右上膊外側に拇指頭大楕圓形の鱗屑疹あり邊緣の一部分には水疱の存するを見る。
9	濱○杉○	14	〃	八丈島末吉村	〃	左頸部より背部に亘り小指乃至示指頭大楕圓形を呈する小水疱連亘あり。瘙痒を訴ふ。
10	日○と○	11	女	父島大村	〃	右前膊伸側に1錢銅貨大不正楕圓形4ヶの小水疱連環あり。
11	佐○○憲○	13	男	〃	〃	左腕關節部背面に小手掌大の地圖狀小水疱連亘あり，瘙痒は甚しからず。
12	三○昭○	11	〃	父島扇浦村	〃	右大腿外側に2ヶ示指頭大乃至拇指頭大の邊緣小水疱を環らし中心部は菲薄白色鱗屑ある發疹あり，瘙痒あり。
13	奥○丈○	16	〃	母島沖村	〃	右前膊伸側に胡桃大楕圓形小水疱連環を存す。
14	神○富○	14	〃	硫黄島	〃	右頸部より胸部に亘り5ヶの小指頭大乃至拇指頭大楕圓形白色菲薄なる鱗屑疹あり。其の邊緣には小水疱の連亘するを見る。

に培養せられたるものなり。

4. 輪廓狀濕疹性白癬

i. 症　例

余が檢査したる輪廓狀濕疹性白癬は10例なり。其の內檢査材料を採取し得たるは4名にして，培養の結果陽性成績を得たるもの2例，即ち第10表の如し。

第 9 表　小水胞性斑狀白癬原因菌統計表

報告者	報告年	菌種 / 研究地	岩穴狀菌	結節狀菌	膿脂色菌	腦廻轉狀菌	顆粒狀菌	星芒狀菌	千葉菌	放射狀菌	趾間菌	猩紅色菌	日本小芽胞菌	菫色菌	禿滑菌	鼠蹊表皮菌	計
山田	1912	東京											2				2
楠	1913	名古屋		2													2
楠	1914	名古屋		3													3
上林	1919	東京				1	1							1		1	4
太田	1921	滿洲	1					2				4	1	1		1	10
上林	1921	東京											1				1
竹谷	1925	仙臺						1				1	3	1			6
加藤	1926	九州			3			3				1	8	1	2	1	19
加藤	1926	琉球										1			2		3
森山	1926	五島										1	1	1			3
森山	1926	長崎			2							1	2		1		6
竹之内	1926	新潟				2		3				4	3		2		14
長谷川	1927	臺灣											3	1			4
高橋(信)	1928	札幌								1		3	1	1		1	7
森山	1929	長崎											2				2
高橋(幸)	1929	北陸			1							2	1				4
尾形	1929	千葉			1			1	2			11	1	1			17
長谷川 北村	1930	東京										3					3
殷	1930	南支那										2	2	1		1	6
藤井	1931	四國										2	8				10
高橋(幸)	1931	北陸			4			1				13	4	2	1	1	26
佐藤	1932	中國										3					3
高須	1932	中國						1				1	2				4
藤井	1932	東京									1	8					9
高橋(吉)	1932	東京						2			1	3	1		2		9
小計			1	5	11	3	1	14	2	1	2	64	46	11	10	6	177
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**			**2**							**2**					**4**
合計			1	5	13	3	1	14	2	1	2	66	46	11	10	6	181

ii. 症狀概觀

余の菌を證明せる本症は2例にして，1は膿脂色菌，1は猩紅色菌なり。何れも邊緣に若干の浸潤と小丘疹排列あり。各例共に多少の瘙痒を訴ふ。而して両菌種中猩紅色菌に依るものは他者に比し炎症々狀稍々激しき感あり(第9圖)。

第10表　輪廓狀濕疹性白癬例表

番號＼區分	姓　名	年齡	性	住　所	菌　種	症　狀
1	白○咲○○	10	男	大島差木地村	臙脂色菌	右腋窩部に小手掌大の部分環狀に小丘疹連亘す搔痒あり。
2	淺○忠○	11	〃	八丈島三根村	猩紅色菌	頸部手掌大の部分環狀に小丘疹連亘す，此の環內の皮膚には僅に色素沈着あり，小丘疹及び鱗屑も散在す(第9圖)。
3	北○芳○	8	〃	新島本村	菌種不明	右頸部に鶏卵大環狀小丘疹連亘あり。
4	奥○賢○	9	〃	青ヶ島	〃	右頸部に鶏卵大の褐色色素沈着あり，其の周邊部には小丘疹連續し多少の浸潤あり。

iii. 原因菌調査

我國に於て輪廓狀濕疹性白癬より培養せられたる菌種と比較すれば第11表の如し。

斯く本症より證明せられたる菌種は18種，株數は530餘なり。報告回數及び培養株數より觀て本症の主要病原菌は星芒狀菌，猩紅色菌及び鼠蹊表皮菌の3種にして之に次ぐは臙脂色菌なり。尙ほ猩紅色菌は全株數の過半を占め最も重要なる菌種なることを示す。

余の培養せるは1は猩紅色菌にして普通に來る種類なれども，1は臙脂色菌にして比較的少數なる菌種なり。

5. 汗疱狀白癬

余は本檢査中確實に汗疱狀白癬と認むべきもの若干例を見たるも，遂に培養を得る能はざりしは遺憾なりとす。

6. 爪甲白癬

i. 症　例

爪甲白癬は本檢査中に於て單に爪甲にのみ病變あるもの4名，及び他部の白癬に兼發せるもの6名，計10例を發見せり。其の內6例に就き培養せる結果3例に於て陽性成績を得たり。即ち第12表の如し。

ii. 症狀概觀

余の爪甲白癬例より證明せる菌種は何れも菫色菌なり。爪の狀態は表面波立ちたる如き觀を呈せるのみにして，爪質甚しく粗鬆になれるものを認めず。(第4, 10, 11圖)。之何れも小兒にして罹病後長年月を經過せざるに因るものか，或は又菫色菌の毒力弱きに因るものか。恐らくは前者に因るものならん。

iii. 原因菌調査

本症より從來本邦の諸學者の證明せる菌を蒐錄して一瞥すれば第13表の如し。

即ち本症より培養せられたる菌種は14種151株なり。而して報告回數及び培養株數の兩方面を參照して判斷すれば，星芒狀菌，猩紅色菌，菫色菌及び禿滑菌は本症の主要病原菌なり。

第 11 表　輪廓狀濕疹性白癬原因菌統計表

報告者	報告年	研究地＼菌種	結節狀菌	臙脂色菌	香川菌	衣襞樣菌	乳色菌	雪狀菌	足蹠菌	星芒狀菌	放射狀菌	趾間菌	猩紅色菌	猩紅色菌變型第1	猩紅色菌變型第3	白色菌變種	日本小芽胞菌	菫色菌	禿滑菌	鼠蹊表皮菌	計
山田	1912	東京															2				2
楠	1913	名古屋	3																		3
楠	1914	名古屋	5																	2	7
高杉	1918	東京																		7	7
上林	1919	東京					1													2	3
太田	1921	滿洲											2								2
太田 河崎	1922	東京					1			1	1		56							3	62
太田	1923	東京 滿洲											1								1
高橋信	1925	朝鮮												1							1
竹谷	1925	仙臺				1		1		1			20							1	24
加藤	1926	九州							1	2			15								18
竹之內	1926	新潟											16							1	17
森山	1926	長崎								1			11								12
長谷川	1927	臺灣									1							2			3
高橋信	1928	札幌											7					1		1	9
高橋幸	1929	北陸		1						2			18							2	23
尾形	1929	千葉								16			69							14	99
橋本 其他	1930	新潟														1					1
長谷川 北村	1930	東京										1	15							4	20
殷	1930	南支那		1						4			3							2	10
藤井	1931	四國			1					5			3								9
高橋幸	1931	北陸		2						4			53							10	69
佐藤	1932	中國								1			16							2	19
高須	1932	中國								12			15				2	1	1	3	34
藤井	1932	東京								2			19		1				1	3	26
高橋吉	1932	東京								1			19						1	1	22
海老原	1933	軍隊（千葉）								7		1	10							9	27
小計			8	4	1	1	2	1	1	59	2	2	368	1	1	1	4	4	3	67	530
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**		**1**									**1**								**2**
合計			8	5	1	1	2	1	1	59	2	2	369	1	1	1	4	4	3	67	532

殊に猩紅色菌は過半數を占め最も重要なるものとなす。

第 12 表 爪 甲 白 癬 症 表

番號＼區分	姓 名	年齢	性	住 所	菌 種	症 狀
1	菊○ 明	12	男	八丈島大賀郷村	菫色菌	左小指の爪は尖端缺損しあり，一面に凹凸不平なり，頭部にも白癬あり(第10圖)。
2	峰○ 清○	10	〃	八丈島樫立村	〃	右示指の爪は凹凸不平波狀を呈す，頭部淺在性白癬もあり(第4圖)。
3	沖○ 幸○	11	〃	八丈島末吉村	〃	左拇示環指右中環指の爪は何れも表面凹凸不平なり，全頭部には無數の鱗屑斑散在す(第11圖)。
4	長○○辰○	14	〃	三宅島伊ヶ谷村	菌種不明	右中環指の爪は表面凹凸不平なり，示指頭大灰白色の鱗屑全頭部に散在。
5	佐○○範○	10	〃	青 ヶ 島	〃	右環指の爪は表面著しく鬆粗にして脆し，頭部白癬著し。
6	菊○ 敏○	10	〃	八丈島中之郷村	〃	右示指の爪は凹凸不平にして先端部は鬆粗なり。

余の例に於ては菫色菌のみにして，本地方に本菌種の甚だ多數なりしを參考すれば蓋し當然の結果とすべきか。

IV. 原 因 的 研 究

1. 臙 脂 色 菌 Trichophytoncoc cineum (Kato 1925)

i. 研 究 史

本菌は 1926 年加藤博士の報告に創まるものなり。爾來森山，長谷川(1927年)，尾形 (1929年)， 高橋(信)，殷(1930年)，藤井，高橋(幸) (1931年)，高須，中村(1932年) 等諸氏の報告相續げり。今之等の業績を蒐錄し1表とすれば第14表の如し。

即ち本菌は頭部淺在性白癬より證せらるゝこと最も多く，小水疱性斑狀白癬及び輪廓狀濕疹性白癬之に次ぎ，其の他の疾患よりも培養せらる。余の例も概ね右に一致し，大部分は頭部淺在性白癬より檢出したり。

又從來頭部深在性白癬より本菌種を證したるは，高橋(幸)氏の1例あるのみなるが，余は其の第2例を培養し得たり。然れども本菌の好みて頭部を浸すことゝ，毒力稍々强きことを顧慮すれば，本症より尙ほ多數に證明せらるゝを當然とする感あり。

ii. 即 席 鏡 檢

病毛。病毛を檢するに其の中に直徑 3.0-5.5 μ，圓形，方形又は長方形の芽胞概ね毛幹に平行に充滿羅列す。

第 13 表　爪甲白癬原因菌統計表

報告者	報告年	菌種 / 研究地	結節狀菌	臙脂色菌	顆粒狀菌	乳色菌	足蹠菌	星芒狀菌	趾間菌	猩紅色菌	藤色菌	トイリトコンβ	白色變種 猩紅色菌	菫色菌	禿滑菌	鼠蹊表皮菌	計
楠	1914	名古屋	1														1
上林	1919	東京			1												1
太田	1921	滿洲													2		2
太田	1923	滿洲								1							1
河崎	1923	東京			1	1		1		14	2			2			21
竹谷	1925	仙臺								1							1
加藤	1926	九州		1			2	2		4							9
加藤	1926	琉球								1							1
竹之内	1926	新潟						1		3				1	1		6
高橋(信)	1928	札幌								5		1		1			7
高橋(幸)	1929	北陸								1							1
尾形	1929	千葉							3	22				1	1		27
橋本 入澤 太田	1930	新潟 仙臺											1				1
長谷川 北村	1930	東京					1			12							13
殷	1930	南支那					4	2	1	8						5	20
高橋(幸)	1931	北陸		1					1	6				1	1		10
佐藤	1932	中國								2							2
中村	1932	東京		1						5					1		7
藤井	1932	東京						1		5					1	1	8
高橋(吉)	1932	東京						1		7					1		9
小計			1	3	2	1	7	8	5	97	2	1	1	6	8	6	148
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**												**3**			**3**
合計			1	3	2	1	7	8	5	97	2	1	1	9	8	6	151

鱗屑。幅員 2.5–3.0 μ の菌糸及び 3.5–4.0 μ 直徑の芽胞を認めたり。

iii. 培　　養

初代培養基。Sabouraud 氏初代培養基に病毛を移植するに4日にして病毛周圍クレーム色に疊れる如き狀を呈し來る。其の後發育比較的速かにして既に10日目には直徑 1 cm に達し，3週目には數糎に及ぶ。本菌は培養後約1週にして中心に數本乃至數十本，時に無數の棘狀突起を出すもの多く，何れも10日稀には20日前後に於て培養中心部より紅色を呈し來る。色調は

第 14 表　臙脂色菌培養症例調査表

報告者	報告年	區分・研究地	病型 頭部淺在性癬	頭部深在性癬	小水疱性斑癬	輪狀白性膿瘡性癬	汗疱狀白癬	爪甲白癬	計	同時發表總數	百分總數に對する比	備考
加藤	1926	九州	5		3		1	1	10	142	0.07	
森山	1926	五島	4						4	39	10.2	
森山	1926	長崎	1		2				3	42	7.1	
長谷川	1927	臺灣	6						6	92	6.5	
高橋(幸)	1929	北陸	3		1	1			5	52	9.6	
尾形	1929	千葉	17		1				18	311	5.7	
殷	1930	南支那				1	1		2	77	2.5	
藤井	1931	四國	5						5	134	3.7	
高橋(幸)	1931	北陸	7	1	4	2		1	15	358	4.1	
高須	1932	中國	2						2	148	1.3	
中村	1932	東京						1	1	7	10.4	異型菌なり
小計			50	1	11	4	2	3	71			
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**	**8**	**1**	**2**	**1**			**12**	**87**	**13.7**	
合計			58	2	13	5	2	3	83			

中心部は濃き臙脂色なるも周邊部は漸次色調淡くなる(第12圖)。

Sabouraud 氏試驗培養基。本培養基にても殆んど前記同樣の發育をなす。

Pollacci 氏培養基。本培養にても菌苔の狀態殆んど同樣なるも色調淡きもの多し。

本菌は培養後約1ヶ月にして絨毛狀變化を起す。殊にS氏試驗培養基に就ては絨毛狀變化を起すこと速かなり。而して一旦變化を來せるものは新しく移植するも容易に原形に復することなく，又色素產生力を失ふ。

iv. 菌學的檢査

S氏葡萄糖寒天培養基を用ひて懸滴培養法を行ふに，何れの株に於ても幅 3.0-4.0 μ の菌糸，單純性外芽胞菌糸，連鎖狀芽胞及び葡萄狀芽胞等を認むるのみなり(第13圖)。

然るに余は釜株にて Pollacci 氏培養基を用ひ懸滴培養を行へるものに於て，完全に多數の紡錘狀芽胞を作れるものを認めたり。此の紡錘狀芽胞は何れも數房に分劃せられあり，約5日間にして多くは各房個々に獨立し連鎖狀芽胞の如き觀を呈し來り，又は內容流出し，菌糸も融解又は瘦削するを見たり。

v. 動 物 試 驗

家兎及び海猪に於て陽性なり。

2. 猩 紅 色 菌　Epidermophyton rubrum (Castellani 1909)
= Trichophyton purpureum (Bang 1910)
= Sabouraudites ruber(Ota et Langeron)

本菌に就ては既に「軍隊に於ける白癬の研究」中に記載したるを以て，茲には前記論文と異なる點のみを擧ぐるに止めんとす。

本邦に於ては從來本菌は相當多數に培養せられたり。即ち第15表の如し。

斯くの如く本菌は白癬の各病型に現はるゝも，最も屢々培養せらるゝは輪廓狀濕疹性白癬にして，汗疱狀白癬及び小水疱性斑狀白癬之に次ぎ，爪甲白癬にも稍々多數に證明せらるゝを見るべし。余の研究中にては小水疱性斑狀白癬2例及び輪廓狀濕疹性白癬1例に於て之を培養したり。

即席鏡檢及び菌學的所見等は前記論文所載に同じ。

培養。培養に於ても概ね前記報告記載に同じ。本3例に於ては何れも定型的なる猩紅色菌の培養狀況を呈し，絨毛狀のもの，色素產生少きもの等を認めず。

動物實驗。家兎及び海猪に於て陽性なり(第14圖)。

3. 菫 色 菌　Trichophyton violaceum (Sabouraud 1909)
= Bodinia violacea (Ota et Langeron)

i. 研 究 史

本菌は 1892 年 Sabouraud 氏に因り發見せられたるものにして，其の後伊太利にて Mibelli, Pelagatti, Ducrey, Reale, Truffi u. a. の報告あり。北米に於ては 1902 年 Bodin 氏の記載あり。

本邦に於ては 1913 年楠氏の記載以來各地よりの報告簇出したり。今之等の成績を1表として通覽すれば第16表の如し。

斯く先進諸學者の研究に依れば頭部淺在性白癬に最も多く，頭部深在性白癬，小水疱性斑狀白癬及び其の他にも少數に來ることを示す。

余の例は頭部淺在性白癬66例，頭部深在性白癬2例及び爪甲白癬3例，計71例に於て本菌種を培養したり。

ii. 即 席 鏡 檢

毛。直徑 3.0-5.0 μ の芽胞，毛幹中に或は平行に，或は錯雜して配列するを見る。(第15圖)

第15表　猩紅色菌培養症例調査表

報告者	報告年	區分 研究地	病型 頭部淺在性白癬	頭部深在性白癬	小水疱性斑狀白癬	輪廓狀濕疹性白癬	汗疱狀白癬	爪甲白癬	計	同時發表總數	百分 總數に對する比	摘要
太田	1920	奉天					3		3	31	9.7	汗疱狀白癬3中2はトリコフイトンβ
太田	1921	滿洲			4	2	2		8	43	18.6	汗疱狀白癬2中1はトリコフイトンβ
太田 河崎	1922	東京			56				56	62	90.3	
伊藤	1923	東京				1			1	3	33.3	
河崎	1923	東京						16	16	21	76.2	16中2は藤色菌
高橋信	1925	朝鮮				1	3		4	41	9.8	汗疱狀白癬中にはトリコフイトンβ，1は猩紅色菌變型第2，輪廓狀濕疹性白癬1は猩紅菌變型第2
楠	1925	名古屋					6?		6?	14	14.6	尖圭狀菌?
竹谷	1925	仙臺			2	20		4	26	87	29.8	
竹谷	1926	仙臺	1			1			2	2	100.0	
加藤	1926	九洲	1		1	15	4	4	25	142	17.6	
加藤	1926	琉球	1		1			1	3	42	7.1	
森山	1926	五島			1				1	39	2.6	
森山	1926	長崎			1	11			12	43	27.9	
竹之內	1926	新潟		1	4	16	8	3	32	132	24.2	
高橋信	1928	札幌			4	7	3	5	19	61	31.1	小水疱性斑狀白癬4中1はトリコフイトンβ
赤木	1929	福岡	1						1	1	100.0	
高橋幸	1929	北陸	1		2	18	8	1	30	52	57.7	
尾形	1929	千葉		1	11	69	15	22	118	311	37.9	
橋本 入澤 太田	1930	新潟 仙臺				1		1	2	2	100.0	
長谷川 北村	1930	東京			3	15	22	12	52	69	75.4	
殷	1930	南支那			2	3	4	8	17	77	22.1	
中村	1930	東京		1					1	1	100.0	
藤井	1931	四國			2	3			5	134	4.0	
藤井	1931	東京					28		28	44	63.6	
高橋幸	1931	金澤				1			1	1	100.0	
高橋幸	1931	北陸	3		13	53	16	6	91	358	25.4	
佐藤	1932	中國	1		3	16	2	2	24	39	61.5	
高須	1932	中國	5		1	15	6		27	148	18.2	
中村	1932	東京						5	5	7	71.4	
藤井	1932	東京			8	20		5	33	43	76.7	輪廓狀濕疹性白癬中1は猩紅色菌變型第3
高橋吉	1932	東京			3	19	4	7	33	71	46.4	
海老原	1933	軍隊（千葉）				10	3		13	109	11.9	
小計			14	3	122	317	6? 131	102	6? 689	2230		
海老原	**1933**	**伊豆七島 小笠原諸島**			**2**	**1**			**3**	**87**	**3.4**	
合計			14	3	124	318	6? 131	102	6? 702	2317		

第 16 表　菫色菌培養症例調査表

報告者	研究地	區分 / 報告年	病型 頭部淺在性白癬	頭部深在性白癬	小水疱性白癬	輪廓狀白濕疹癬	汗疱狀白癬	爪甲白癬	計	同時發表總數	百分比 總數に對する
楠	名古屋	1913	18						18	28	64.2
楠	名古屋	1914	15						15	36	41.6
上林	東京	1919	3		1				4	21	19.0
太田	滿洲	1921	2		1				3	43	6.9
河崎	東京	1923	8						8	30	26.6
河崎	東京	1923						2	2	21	9.5
竹谷	仙臺	1925	7		1				8	87	9.1
加藤	九州	1926	13		1				14	142	9.8
加藤	琉球	1926	2	2					4	42	9.5
森山	五島	1926	8		1				9	39	23.0
竹之内	新潟	1926	26				1	1	28	132	21.2
長谷川	臺灣	1927	30	2	1	2			35	92	38.0
小池	岡山	1927		1					1	1	100.0
森山	上海 南京	1927	4						4	21	18.0
上林 德田	琉球	1927	9						9	43	20.9
高橋(信)	札幌	1928	1		1	1	1	1	5	61	8.1
高橋(幸)	北陸	1929	2	1					3	52	5.7
尾形	千葉	1929	71	1	1			1	74	311	23.7
殷	南支那	1930	10		1				11	77	14.2
藤井	四國	1931	5	1					6	134	4.4
高橋(幸)	北陸	1931	42	2	2			1	47	358	13.1
高須	中國	1932	17			1	1		19	148	12.8
高橋(吉)	東京	1932	6	1					7	71	9.8
小計			299	11	11	4	3	6	334	1990	
海老原	**伊豆七島小笠原諸島**	**1933**	**61**	**2**				**3**	**66**	**87**	**75.9**
合計			360	13	11	4	3	9	400	2077	

爪及び鱗屑。何れも幅 2.5–3.5 μ の菌糸が走行する間に，毛髪に於けるが如き芽胞の散在するを見るも，之に於ては少數にして，毛髪内に見るが如く密集することなし。

iii. 培　　養

初代培養基。培養材料を移植すれば 5–7 日にして其の周圍に微に不透明なる部分を生ず。本菌は發育極めて遲くして，約 1 ヶ月にして菌苔の直徑 1 cm に達するに過ぎず。而して本菌

は培養2-3週後より其の中心部先づ菫色を呈し來り，菌苔の發育と共に着色部も增大す（第16圖)。

Sabouraud 氏試驗培養基及び Pollacci 氏培養基。之等の培養基に於ても殆んど前記同樣の發育をなす。

iv. 菌學的檢査

懸滴培養法に依り檢するに，菌糸は迂曲し幅 3.0 μ 前後なり。外芽胞は認むるを得ざりき(第17圖)。

v. 動物試驗

家兎及び海猴等に於て陰性なり。學者によりては (Truffi, Lombardo u. Pecori) 陽性成績を報告せるものあり。

又本菌を動物より培養したりと報告せる學者 (Sabouraud, Pelagatti, Mibelli u. Minne) あるに徵するも，本菌種は動物に對し毒性あるものなるべし。

4. 禿滑菌　Trichophyton glabrum (Sabouraud 1909)
= Bodinia glabra (Ota et Langeron)

i. 研究史

本菌は1910年 Sabouraud 氏により菫色菌の從屬として記載せられたり。

我邦に於ては 1914 年楠氏の報告以來，太田，谷口，加藤氏以下多數の報告相續いで現はれたり。即ち第17表の如し。

斯くの如く殆んど全部頭部淺在性白癬より證せられ，其の他の病型より培養せらるゝこと僅かなるは菫色菌に類似す。

余は頭部淺在性白癬のみより本菌の6株を培養したり。

ii. 即席鏡檢及び其の他

病毛の即席鏡檢成績，培養狀態，菌學的所見及び動物試驗の結果等何れも菫色菌と殆んど同樣にして，唯々本菌の培養には着色を認めずして，蠟樣の外觀を呈する點のみが最も大なる差別なりとす(第18, 19圖)。

V. 地理的研究

1. 本地方の白癬概觀

余が研究せる地は既述の如く，伊豆七島及び小笠原諸島にして(第1表參照)，調査總人員5341，其の患者數243にして，罹患率4.16%を示せり。而して本檢査16校中罹患者を發見せざりしは式根，伊豆及び坪田の3校なり。最も罹患率高きは青ヶ島小學校の26.76%にして，之に次ぐは中之郷及び末吉2校の17%强なりとす。島別に觀れば患者皆無なるは式根島のみにし

第 17 表　禿滑菌培養症例調査表

報告者	報告年	區分 / 研究地	病型 頭部淺在性白癬	頭部深在性白癬	小水疱性斑狀白癬	輪廓狀濕疹性白癬	汗疱狀白癬	爪甲白癬	計	同時發表總數	百分 總數に對する比
楠	1914	名古屋	1						1	36	2.7
太田	1921	滿洲						2	2	43	4.6
谷口	1924	名古屋	2						2	2	100.0
竹谷	1925	仙臺	2						2	87	2.2
加藤	1926	九州	27		2				29	142	20.4
加藤	1926	琉球	12	4	2				18	42	42.8
森山	1926	五島	14						14	39	35.8
森山	1926	長崎	6		1				7	43	16.2
竹之內	1926	新潟	3		2		2	1	8	132	6.0
上林 德田	1927	琉球	14						14	197	7.1
尾形	1929	千葉	14					1	15	311	4.8
藤井	1931	四國	1						1	134	0.7
藤井	1931	東京					1		1	44	2.2
高橋(幸)	1931	北陸	21		1			1	23	358	6.4
高須	1932	中國	6			1			7	148	4.7
中村	1932	東京						1	1	7	14.2
藤井	1932	東京				1		1	2	43	4.6
高橋(吉)	1932	東京	1		2	1		1	5	71	7.0
小計			124	4	10	3	3	8	152	1879	
海老原	**1933**	**伊豆七島小笠原諸島**	**6**						**6**	**87**	**6.8**
合計			130	4	10	3	3	8	158	1966	

て，罹患率最も高きは青ヶ島，之に次ぐを北硫黄及び八丈の2島とす。

飜りて本邦に於ける既出報告と比較するに，北海道札幌市の兒童0.44%(高橋信吉氏)，四國1.84%(藤井氏)，臺灣內地人兒童1.25%（長谷川氏）等に比較し著しく高率を示すも，臺灣公學校兒童の13.5%(長谷川氏)に比すれば猶甚だ少數なり。

次に島別菌種別に觀察すれば第18表の如く，青ヶ島以南に在りては單に菫色菌及び禿滑菌のみを證明し，他の菌種を證明せるは八丈島，新島及び大島の3島なり。

2. 他地方に於ける研究との比較

i. 概　　觀

白癬菌は地方に依り特異なるものを存し，少くも各菌種檢出の頻度に於て特色あるは既に

第18表　島別菌種別培養例數

菌種別＼島別	大島	新島	三宅島	八丈島	青ヶ島	父島	母島	北硫黄島	硫黄島	計
臙脂色菌	5	4		3						12
猩紅色菌	1	1		1						3
菫色菌	6	1	3	48	2	3	1		2	66
禿滑菌	1			3				2		6
計	13	6	3	55	2	3	1	2	2	87

備考　本表の島は北より南に向ひ位置の順に記載したり。

先進諸家の齊しく唱ふる所なり。今比較の妥當及び容易の爲め，他地方に於ける研究中小學校兒童及び小兒に係るものを集錄すれば第19表の如し。

即ち小學校兒童の白癬は，臙脂色菌，星芒狀菌，猩紅色菌，日本小芽胞菌，菫色菌及び禿滑菌等を主要なる病原菌となす。

扨本地方に於ては菫色菌及び禿滑菌最も多く，此の両者を合すれば總數の80%以上に達す其の他には臙脂色菌及び猩紅色菌の少數を存するのみなり。之を他地方の研究に比較するに，各菌種の檢出狀況の最も近似するは地理的にも接近する千葉縣地方の成績なりとす。即ち本邦兒童に於ては日本小芽胞菌が各地方共（名古屋を除く）最大多數を占むるに對し，千葉縣地方兒童にては同菌は比較的少數にして，菫色菌が最多數を占む。本地方に至りては菫色菌は更に多數を示し，日本小芽胞菌は遂に皆無となれり。次に星芒狀菌は四國，中國及び北陸地方等に於ては相當多數に證明せられたるも，本諸島に於ては皆無，又千葉縣地方に於ては僅に2例(0.72%)を示せるのみなり。本菌は本諸島及び附近の兒童に於ては僅少なる菌種なるを知る。

更に本地方白癬と他地方との間に存する最も大なる差異を再言すれば，1．本諸島にては菫色菌及び禿滑菌の甚だ多數なること。2．日本小芽胞菌の皆無なることの2點に歸着す。

斯くの如き特異なる菌種分布を來せる理由如何。本問題を研究するに當り先づ眼を放ちて本邦全般に亘り先進諸學者の菌種分布に對する見解を尋ねん。

加藤氏は九州及び琉球の白癬を研究せる後，日本小芽胞菌は亞細亞に特殊の菌種にして恐らくは支那大陸より我邦に渡來せしものなるべし。又禿滑菌は暖地に於て發育良好にして南歐人に因りて我邦に傳播せられたるものならざるやを疑ふと首唱せり。尾形氏は千葉縣地方の白癬を仔細に調査せる結果，菫色菌は南房州の尖端より銚子迄の温暖なる海岸線に多數存在し，殊に銚子に於て最も多數なり。又臙脂色菌も千葉縣地方に於て廣く散在するも殊に南房州及び太平洋沿岸に多く分布せり。禿滑菌も略前2者と同樣なる關係にあり。即ち以上温暖なる地方には小芽胞菌よりも寧ろ是等の髮內菌多きを知ると結論せり。藤井氏は四國地方の白癬を檢査して，菫色菌及び禿滑菌は四國地方の西南部に其の分布最も密なり。臙脂色菌は本地方中最も温暖なる南斜面に於て分布せるを認め，且つ本菌は日本小芽胞菌と共に亞細亞に特殊の菌種にして恐らく南方大陸より本邦に渡來せしものなるべし。猩紅色菌は本地方には比較的少數にして，本

第19表　各地方

報告者	報告年	菌種 / 研究地	結節狀菌	臙脂色菌	香川菌	腦廻轉狀菌	衣襞狀菌	顆粒狀菌	小芽胞菌 オーヅアン氏	星芒狀菌	千葉菌	放射狀菌
竹谷	1925	仙臺	7 (13.0)						1 (1.9)			
河崎	1923	東京						1 (3.9)				3 (11.5)
上林	1919	東京				1 (10.0)						
上林	1921	東京										
尾形	1929	千葉		18 (13.1)						1 (0.7)	2 (1.5)	
海老原	1933	伊豆七島小笠原諸島		12 (13.8)								
楠	1913	名古屋	5 (21.7)									
楠	1914	名古屋	11 (40.7)									
高須	1932	中國		2 (1.9)						9 (8.7)		
藤井	1931	四國		5 (3.7)	1 (0.7)					16 (12.0)		
加藤	1926	九州 琉球		8 (5.8)						1 (0.7)		
森山	1926	五島		4 (10.3)								
森山	1926	長崎		1 (4.2)						1 (4.2)		
長谷川	1927	臺灣		6 (7.2)								
高橋(信)	1928	札幌										
竹之内	1926	新潟				5 (5.5)				7 (7.7)		
高橋(幸)	1929	北陸		2 (12.5)						1 (6.3)		
高橋(幸)	1931	北陸		11 (4.6)						2 (0.8)		1 (0.4)
高橋(信)	1925	朝鮮										
太田	1921	滿洲					1 (3.3)			6 (20.0)		
計			23 (1.8)	69 (5.3)	1 (0.1)	6 (0.5)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	44 (3.4)	2 (0.2)	4 (0.3)

備考　(1) 括弧内數字は計に對する百分率，(2) 殷，1930，揚子江下流沿岸の研究
猩紅色菌17，鼠蹊表皮菌15，計77，(3) 北村，寺井1933滿蒙の研究（年

兒童白癬菌種表

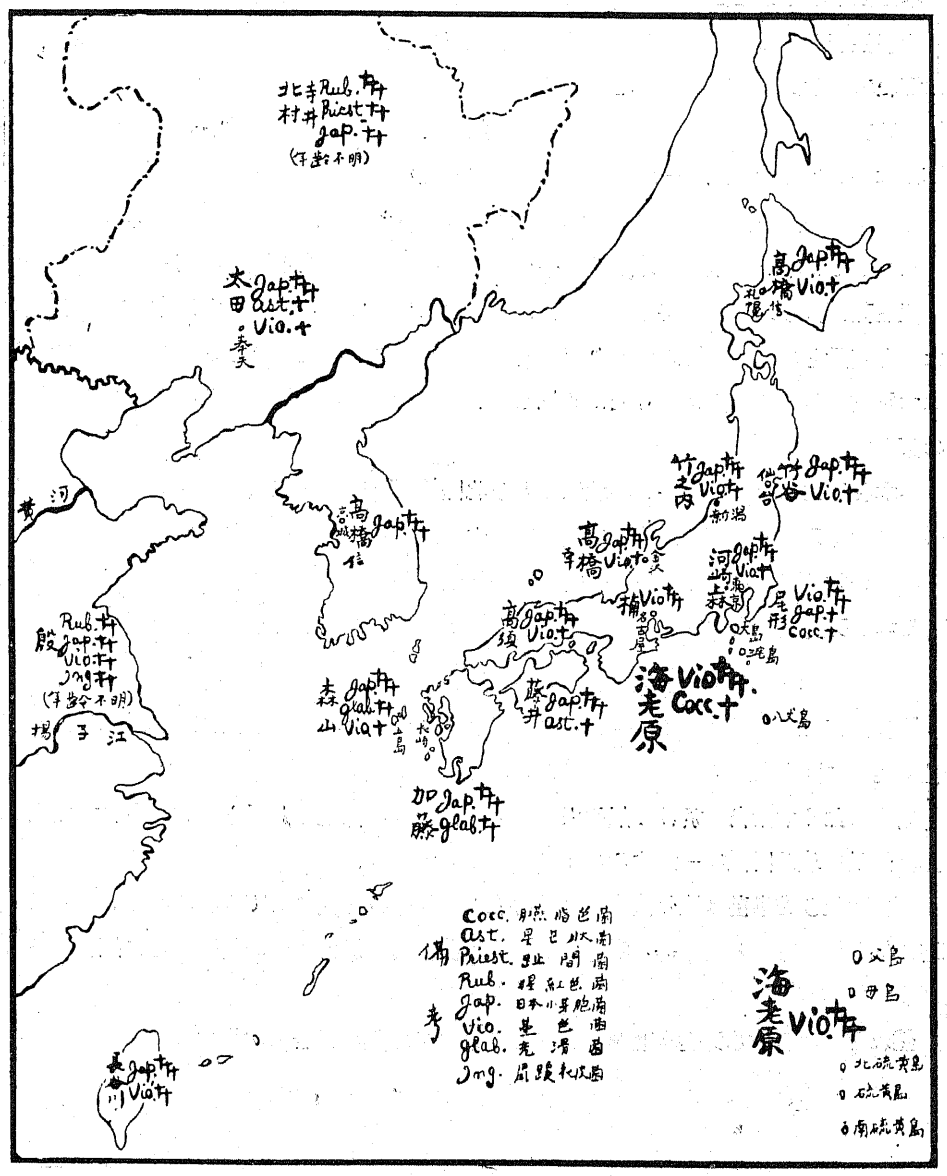
穀粉狀菌	趾間菌	趾間變型第2菌	猩紅色菌	愛媛菌	白色黃癬樣菌	日本小芽胞菌	菫色菌	禿滑菌	栗色菌	黑色菌	鼠蹊表皮菌	計
			1 (1.9)			34 (63.0)	7 (13.0)	2 (3.7)				54
						14 (53.8)	8 (30.8)					26
						6 (60.0)	3 (30.0)					10
						10 (100.0)						10
			11 (8.0)			21 (15.3)	71 (51.8)	12 (8.7)		1 (0.7)		137
			3 (3.5)				66 (75.9)	6 (6.9)				87
							18 (78.3)					23
							15 (55.6)	1 (3.7)				27
			8 (7.8)			59 (57.3)	18 (17.5)	7 (6.8)				103
			5 (3.7)	1 (0.7)		99 (73.9)	6 (4.5)	1 (0.7)				134
			3 (2.2)			63 (45.3)	17 (12.3)	45 (32.4)	1 (0.7)		1 (0.7)	139
		1 (2.6)	1 (2.6)			10 (25.6)	9 (23.1)	14 (35.9)				39
			1 (4.2)			16 (66.7)		5 (20.8)				24
						42 (50.6)	35 (42.2)					83
1 (3.7)						25 (92.6)	1 (3.7)					27
			3 (3.3)			45 (49.5)	26 (28.6)	5 (5.5)				91
			4 (25.0)			6 (37.5)	3 (18.8)					16
	1 (0.4)		8 (3.4)			149 (62.6)	44 (18.5)	22 (9.2)				238
						11 (100.0)						11
			1 (3.3)		1 (3.3)	18 (60.0)	3 (10.0)					30
1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	49 (3.7)	1 (0.1)	1 (0.1)	628 (48.0)	350 (26.8)	120 (9.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1307

（年齡不明）日本小芽胞菌14，菫色菌11，臙脂色菌2，足蹠菌8，趾間菌4，星芒狀菌6，
齡不明）猩紅色菌54，趾間菌27，日本小芽胞菌29，足蹠菌2，計 112.

邦一般に北方に密，南方に疎なる分布密度に合致せるを認むと加藤氏の說に應ずる所ありたり。高須氏は中國地方に於ける白癬を研究して，臙脂色菌は比較的温暖なる瀨戸內海沿岸に分布し，猩紅色菌は本地方にて比較的多數を得且つ平等に分布せるを認めたり。又堇色菌及び禿滑菌は比較的交通頻繁なる平野，海岸にのみ分布せるを認め，兩菌種の多數を得て九州と中國地方とが地理的に密接なる關係を有し，且つ交通が白癬菌傳播に大なる意義を有することを認め，以て加藤氏の南歐よりの本菌種の渡來說に左袒せんとしたり。又最近北村，武井兩氏は滿蒙に於ける皮膚糸狀菌病研究に際し，堇色菌の培養皆無なるを見，之を同地方の氣温の關係に歸したり。

之等の研究所說を更に略圖の下に一瞥すれば（第20圖）の如し。（主として16才以下の幼年者に係る調査を蒐む）。

白癬菌檢出狀況圖



本邦各地に於ける白癬分布の狀況及び之に對する諸學者の見解は大要以上の如し。余の檢査せる諸島の狀況は之等の諸說のみにては解明し難き點なしとせず。次に之に對する卑見を述べんとす。

ii. 交通に對する觀察

疫病の流行は人類交通の跡に從ふは傳染病學及び醫學史の示す所なり。從來2,3の白癬研究家が分布狀態說明の基礎を此處に求めたること既に前述の如し。本諸島に於ける說明にも之に據れば，本州より漸次遠き諸島に移行する狀況に適應すれども次の點に於て不滿足ならずとせず。

本諸島中小笠原諸島は近時の開發にして日本各地よりの移住者混在す。八丈島は九州方面よりの移住若しくは漂流多きことは歷史及び現在の方言に示す所なり。其の他の本州に近き諸島は概ね古く住民の土着あり。地理的關係により行政上及び交通上には本諸島は遠駿豆及び江戸乃至東京と密接なる交涉ありたり。斯くの如く交通によりてのみ說明せんとすれば，本諸島白癬は本州又は四國九州に一致若しくは近似する理なり。

菫色菌及び禿滑菌が交通に從ひ本諸島に移入せられたるは容易に首肯し得べし。

然れども日本小芽胞菌の片鱗をも存せざりしは如何，是れ不滿足の第一なり。

菫色菌は南歐人に依り將來せられたりとなす學者あり。我國の交通は古く支那との間に存したるも南歐との間には近時に至りて開かれたり。單に交通にのみ依るとすれば，日本小芽胞菌は本諸島に於て菫色菌よりも先に發見せられざるべからず。然るに此のことなし，是れ不滿足の第2なり。

日本各地共に菫色菌を存し，北海道及び北陸等異國交通と疎遠なる地にも之を證明し得。南歐よりの輸入とすれば傳播速かに過ぎざるか，是れ不滿足の第3なり。

斯くの如く論ずれども，全く交通に因る傳播を否定するには非ず。余を以て見れば，菫色菌も日本小芽胞菌も共に支那大陸方面より東漸せるものならんと思考するなり。

iii. 氣候に對する觀察

植物分布上最も重大なる影響あるは氣候及び風土なりとす。氣候に就ては，氣溫及び濕度が植物生育に關する最も主要なる條件なるを以て之を調査するに第20表の如し。

斯くの如く本諸島に於ける氣溫及び濕度の狀況は，緯度の關係と同じく概ね本州南部より四國九州及び琉球附近に一致するを見る。

菫色菌及び禿滑菌は歐州南方に多く存在し，又一方培養に於ても高溫を可とすること及び寒地に比較的少數なること等を考慮すれば，本諸島の氣候は之等の菌の發育に適當せるものと判斷するを得べし。

然れども，日本小芽胞菌皆無なるは此の理にては說明に苦しむ所なり。

第 20 表　日本各地氣象概觀表

區分 / 氣象臺別	氣温概觀						晴雨概觀					
	每日最高平均			每日最低平均			年間降水量 (m.m)	年間平均濕度 (100分率)	年間日照時數 (時)	年間快晴日數 (雲量2以下)	年間曇天日數 (雲量8以上)	年間降水日數 (降水量0.1 m.m以上)
	最低月	最高月	全年	最低月	最高月	全年						
石卷	3.4 (1月)	26.5 (8月)	14.8	-3.8 (1月)	20.4 (8月)	7.3	1126	81	2087.9	34	138	153
東京	8.3 (1月)	29.9 (8月)	18.6	-1.4 (1月)	22.2 (8月)	9.8	1567	74	2124.1	56	149	146
大島		29.8		0.1			3316					170
八丈島	13.3 (1月)	28.6 (8月)	20.7	7.2 (1月)	23.6 (8月)	15.1	3423	77	1676.4	6	206	227
父島	20.4 (2月)	30.9 (7月)	25.7	14.2 (2月)	24.6 (8月)	19.7	1572	79	2214.1	21	140	191
名古屋	8.2 (1月)	31.6 (8月)	19.7	-1.0 (1月)	26.6 (8月)	10.0	1685	75	2262.4	57	119	144
岡山	8.5 (1月)	31.5 (8月)	19.5	-0.6 (1月)	23.0 (8月)	10.1	1113	75	2397.4	45	121	127
廣島	9.0 (1月)	31.7 (8月)	19.8	-0.2 (1月)	22.8 (8月)	10.2	1537	74	2087.5	39	127	136
松山	9.7 (1月)	31.7 (8月)	20.2	0.2 (2月)	22.1 (8月)	10.1	1348	77	2071.1	42	137	145
高知	11.6 (1月)	31.0 (8月)	21.0	0.7 (1月)	22.4 (8月)	11.3	2725	75	2172.5	59	140	149
熊本	10.3 (1月)	32.4 (8月)	21.2	-0.7 (1月)	22.4 (8月)	10.1	1791	78	1827.7	51	128	154
鹿兒島	11.9 (1月)	31.0 (8月)	21.4	2.7 (1月)	23.3 (8月)	12.6	2184	76	2000.1	54	138	170
那覇	19.2 (2月)	31.5 (7月)	25.4	12.9 (2月)	25.0 (7月)	19.1	2107	79	2038.9	19	172	201
臺北	18.4 (2月)	33.1 (7月)	25.9	11.9 (2月)	24.2 (7月)	18.3	2123	82	1635.7	30	186	186
札幌	-1.9 (1月)	26.2 (8月)	12.0	-11.7 (1月)	16.2 (8月)	1.8	1030	79	1848.6	23	155	195
新潟	4.2 (1月)	30.0 (8月)	16.6	-1.4 (1月)	22.0 (8月)	9.2	1798	79	1642.3	21	200	226
金澤	6.1 (1月)	30.4 (8月)	17.8	-0.9 (1月)	21.5 (8月)	9.3	2540	78	1723.8	23	193	223
仁川	0.4 (1月)	28.8 (8月)	15.0	-7.1 (1月)	21.6 (8月)	7.1	1019	72	2592.6	81	107	104
奉天	-6.5 (1月)	30.3 (7月)	13.6	-18.9 (1月)	20.0 (7月)	1.4	662	64	2661.3	117	78	93

備考　本表中大島に係る分は大島概觀(昭和4年東京府廳版)に，其の他は理科年表昭和3乃至7年版の平均に依る。

iv. 風土に對する觀察

本島地方諸は構造地質學的には悉く富士火山帶に屬し，何れも海底より噴出せる火山に因り成立せる島嶼にして，大島，青ヶ島及び硫黄島等には現に噴煙の昇騰を見つゝあり。此の噴煙の硫氣は系狀菌發育に著しく影響あるべきは容易に推察し得る所なり。

一方土地は火山岩質より成れる輕疎なる砂礫にして，地下水を得難く，天水を常用するもの多きこと既述の如し。

之等の點は，本土に比較し最も特殊なる影響を植物界に與ふる因子と見るべきものなり。

斯かる風水土質に堪へざる菌種は絕滅し，之に適應する菌種は繁殖すと觀るを至當とすべし。

3. 概　　括

以上の諸方面より，研究の結果余は此の點に關し下の如く說明せんと欲す。

菫色菌及び禿滑菌は本地方の氣候及び風土に適し繁殖するものならん。

日本小芽胞菌は本地方の風土之に適せざるものならん。

菫色菌及び日本小芽胞菌は共に支那大陸より東漸せしものならん。

尙ほ交通の關係に依り，日本小芽胞菌が此の洋上諸島に及ばざるものとすれば，將來本土と本諸島間の交通便利となるに從ひ早晩本菌種が本諸島に出現する時あるべく，風土に依るものとすれば長く出現することなかるべし。玆に附記して將來の研究に俟たんとす。

VI. 總括及び結論

1. 余は昭和6年伊豆七島及び小笠原諸島に於ける，小學校兒童5841人に就き皮膚糸狀菌病を調査し，243 名の白癬患者を發見し，其の內 168 例に就き培養を試み，87例に於て陽性成績を得たり。

2. 本諸島兒童の皮膚糸狀菌病は，余の調査せる範圍に於ては白癬のみにして，其の菌種は，臙脂色菌，猩紅色菌，菫色菌及び禿滑菌の4種なり。

3. 本檢査にて證明したる菌株は，頭部淺在性白癬に於て菫色菌61例，臙脂色菌 8 例及び禿滑菌 6 例，頭部深在性白癬に於て菫色菌 2 例及び臙脂色菌 1 例，小水疱性斑狀白癬に於て臙脂色菌及び猩紅色菌各 2 例，輪廓狀濕疹性白癬に於て臙脂色菌及び猩紅色菌各 1 例，爪甲白癬に於て菫色菌 3 例なり。

頭部深在性白癬に於て臙脂色菌を證明したるは余の例を第 2 例となす。

4. 余は本檢査中，臙脂色菌の例に於て從來の記載と異なる點ある菌株を得たり。其の詳細は改めて報告せんとす。

5. 臙脂色菌は頭部淺在性白癬より培養せらるゝこと最も多く，小水疱性斑狀白癬及び輪廓狀濕疹性白癬之に次ぐ。

猩紅色菌は輪廓狀濕疹性白癬より培養せらるゝこと最も多く，汗疱狀白癬，小水疱性斑狀白癬及び爪甲白癬之に亞ぎ，其の他の病型より證せらるゝことは稀なり。

菫色菌及び禿滑菌は頭部淺在性白癬より培養せらるゝもの大部分にして，頭部深在性白癬，小水疱性斑狀白癬及び爪甲白癬等よりも稀に證明せらる。

6. 本諸島中青ヶ島以南に於ては，菫色菌及び禿滑菌以外の菌種を證明するを得ざりき。

7. 本諸島の白癬菌種分布は他地方に比し著しく特殊なる點あり。即ち菫色菌及び禿滑菌著しく多くして，反對に日本小芽胞菌は皆無なり。其の原因は交通，氣候及び風土に因るものならんと判斷せらる。

8. 菫色菌及び日本小芽胞菌は共に支那大陸より東漸せしものなるべし。

終りに恩師佐藤教授は余に本研究を命ぜられ，終始懇篤に指導鞭韃せられ且つ校閲の勞を賜はりたり。黑田助教授，尾形博士並びに同教室醫局員諸氏，前陸軍野戰砲兵學校長西及び入江両閣下，同校附板倉一等軍醫諸氏は，作業に當り種々便

宜を與へられたり。又檢査材料蒐集に當りては，牛塚前東京府知事並びに高橋千葉醫科大學長両閣下，輕部東京府衛生技師，藤田千葉縣衛生技師，河田賛育會病院長各支廳長，各小學校長及び教員諸氏等より多大の助力を賜はりたり。玆に記して諸閣下及び各位に深厚なる感謝の意を表す。

(本論文の要旨は，昭和6年11月14日千葉醫學會第9回總會並びに昭和7年7月16日第32回日本皮膚科學會總會の席上に於て發表したり。)

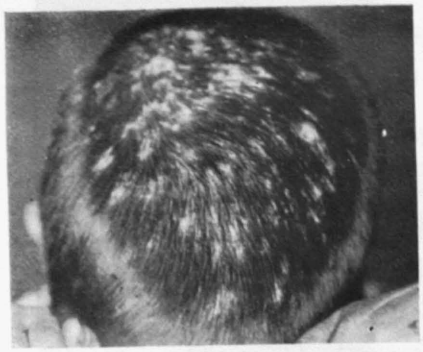
文　　献

Alexander; Beiträge zur Kenntnis des Ekzema marginatum. Arch. f. D. u. S. Bd. 113, 1912. **Alexander;** Die Trichophytie der Hände u. Füsse. Medizinische Klinik. Jg. 18, 1922. **Bang;** Über eine aus grossen Kreisen bestehende Trichophytie der Haut, verursacht durch ein noch nicht beschriebenes Dermatophyton. Monatshefte für praktische Dermatologie, Bd. 51, 1910. **Bruhns u. Alexander;** Allgemeine Mykologie. Handbuch der Haut- u. Geschlechtskrankheiten, Bd. 11, 1928. **Bruhns u. Alexander;** Grundriss der mykologischen Diagnostik. 1932. **Bruhns;** Zur gegenwärtigen Bartflechtenepidemie. Dermatol. Wochenschr. Bd. 66, 1918. **Bruhns;** Einige Bemerkungen über verschiedene Pilzarten und Pilznährböden (Grütz-Agar, Pollacci-Agar). Dermatol. Zeitschr. Bd. 53, 1928. **Castellanie;** Observations on a new species of Epidermophyton found in Tinea cruris. British journal of dermatology, Vol. 22, 1910. **Capellie;** Untersuchungen über die Trichophytien. Arch. f. D. u. S. Bd. 112, 1912. **土肥慶藏;** 皮膚科學. 下卷. 第14版. 1930. **土肥章司;** 皮膚及び性病學. 第4版. 1933. **海老原正順;** 軍隊に於ける白癬の研究. 軍醫團雜誌. 第243號. 1933. **Fischer;** Studien über Dermatomykosen in Berlin. Dermatologische Zeitenschrift. Bd. 59, 1914. **藤井清二郎,** 新菌種に因る白癬性疾患の研究 (附) 四國地方の白癬及び白癬菌の分布に就て. 皮. 第31卷. 1931. **藤井清二郎;** 東京地方に於ける龜毛部白癬病因知見補遺殊に猩紅色菌變型第Ⅲ. (Sabouraudites ruber var. Ⅲ) に就て. 皮. 第32卷. 1932. **長谷川宗憲;** 臺灣に於ける皮膚糸狀菌病に就て並に其の病原菌に關する研究. 皮. 第27卷. 1927. **長谷川宗憲; 北村包彦,** 東京地方に於ける白癬. 皮. 第30卷. 1930. **橋本喬, 入澤保, 太田正雄;** 猩紅色白癬菌の白色變種に因る皮疹に就て. 皮. 第30卷. 1930. **Hebra;** Über den Befund von Pilzen bei Ekzema marginatum. Arch. f. D. u. S. Bd. 1. 1869. **Hodges;** Ringworm of nails. A preliminary report of sixteen cases of Onychomycosis with a cultural study of twelve cases due to trichophytons. Archives of Dermatology and Syphilology, Vol. 4. 1921. **殷憲田;** 中華揚子江下流沿岸地方に於ける糸狀菌性疾患殊に其の病原菌の研究. 皮. 第30卷. 1930. **伊藤實;** 濕布に因る皮膚疾患に於てエピデルモフイートンイングイナーレ乳色石膏樣菌及びバング氏猩々緋菌を培養し得たる3例. 皮. 第23卷. 1923. **上林豐明;** 白癬病原菌の研究補遺. 皮. 第19卷. 1919. **上林豐明;** 小芽胞菌の1新種. Microsporum japonicum Dohi et Kambayashi (Oidium microsporum Kambayashi var. nov.) に就て. 皮. 第21卷. 1921. **上林豐明;** ケリオン. ツエルジー及び深部白癬の各1例及び其の病原菌に就て. 皮. 第23卷. 1923. **加藤泰;** Sabouraudites ruber (Epidermophyton rubrum Castellani) に因る頭部白癬殊に其の髮內性に就て. 皮. 第25卷. 1925. **加藤泰,** 九州並に琉球の白癬. 皮. 第26卷. 1926. **Kaufmann-Wolf;** Über die Bestimmung pathogener Hyphomy-

zeten unter besonderer Berücksichtigung der Pilzflora in Berlin. Arch. f. D. u. S. Bd. 68, 1917. **河崎可也**; 我國頭部白癬の知見補遺. 皮. 第23卷. 1923. **河崎可也**; 我國の爪甲白癬に就て. 皮. 第23卷. 1923. **Keller**; Die Pilzflora Oberbadens. Zentralblatt für Haut und Geschlechtskrankheiten, Bd. 20, 1926. **楠 太**; 本邦に於ける白癬の第1研究報告. 皮. 第13卷. 1913. **楠太**; 本邦に於ける白癬の研究. 第2報告. 皮. 第14卷. 1914. **Lewandowsky**; Über Kerion Celsi verursacht durch Mikrosporon Audouini, nebst Bemerkungen über die in Hamburg vorkommenden Mikrosporon u. Trichophytonarten. Arch. f. D. u. S. Bd. 121, 1915. **Miescher**; Trichophytien u. Epidermophytien. Handbuch der Haut- u. Geschlechtskrankheiten, Bd. 11, 1928. **Mitchell**; Further studies on ringworm of the hands and feet. Arch. of Dermatol. a. Syphilol. Vol. 5, 1922. **森山儀六**; 肥前五島地方に於ける白癬. 長崎醫學會雜誌. 第4卷. 1926. **森山儀六**; 長崎地方に於ける白癬の知見遺見補遺. 長崎醫學會雜誌. 第4卷. 1926. **中村敏郎**; 猩紅色菌 Trichophyton purpurlum Bang (1910), Epidermophyton rubrum Castellani (1909) によるチエルズース氏禿瘡の1例. 皮. 第30卷. 1930. **中村敏郎**; 爪甲白癬殊に其原因菌中の一異型菌種に就て. 皮. 第32卷 1932. **尾形貞男**; 千葉縣地方に於ける白癬の研究. 皮. 第29卷. 1929. **尾形貞男**; Pollacci 氏培養基に就て. 皮. 第30卷. 1930. **尾形貞男, 坂本久雄, 江尻伊三郎**; 大正12年より昭和2年に至る皮膚泌尿器科新來患者の統計的觀察. 千葉醫學會雜誌. 第8卷. 1930. **太田正雄**; 滿洲の白癬. 皮. 第21卷. 1921. **太田正雄, 河崎可也**; 我國の頑癬殊に其の病原糸狀菌に就て. 皮. 第22卷. 1922. **太田正雄**; Trichophyton purpureum Bang, Trichophyton interditale Priestley 及 Trichophyton "B" Hodges に就て. 皮. 第23卷. 1923. **Pecori**; Die Trichophytonarten der Provinz Rom. Arch. f. D. u. S. Bd. 112, 1912. **Pick**; Das Ekzema marginatum. Eine Studie über die Natur u. das Wesen dieser Krankheit. Archiv f. D. u. S. 1869. **理科年表**; 昭和 3–7 年版. **Sabouraud**; Les Teignes. 1910. **佐藤喬**; 中國地方の白癬. 皮. 第32卷. 1932. **Semon**; Tinea ungium. Brit. journ. of Dermatol. Vol. 34, 1922. **Strandberg**; Über eine Pilzerkrankungen der Hände u. Füsse. Dermatol. Wochenschr. Bd. 68, 1917. **高橋信吉**; 毫毛部に於ける深在性白癬の1例. 皮. 第23卷. 1923. **高橋信吉**; 朝鮮の白癬並びに白癬菌に就て. 皮. 第25卷. 1925. **高橋信吉**; 札幌地方の白癬並びに白癬菌に就て. 皮. 第28卷. 1928. **高橋幸吉**; 北陸地方に於ける白癬菌病に就て並びに其の病原菌に關する研究. (第1回報告). 十全會雜誌. 第34卷. 1929. **高橋信吉**; 白癬菌に關する2, 3生物學的研究. 皮. 第29卷. 1929. **高橋幸三**; 輪廓狀濕疹性白癬に續發せる潰瘍性黴毒の1例. 皮. 第31卷. 1931. **高橋幸三**. 北陸地方に於ける白癬菌病に就て並びに其の病原菌に關する研究 (第2回報告) 十全會雜誌. 第36卷. 1931. **高橋吉定**; 東大外來に於ける白癬菌の培養成績に就て. 皮. 第32卷. 1932. **高須令三**; 石膏樣白癬菌性チエルズース氏禿瘡の1例. 皮. 第30卷. 1930. **高須令三**; 中國地方に於ける白癬の研究. 日本醫科大學雜誌. 第3卷. 1932. **竹之內辰四郎**; 白癬に關する研究補遺特に新潟地方の白癬性疾患に就て. 北越醫學會雜誌. 第41年. **Takeya Minoru**; Studien über die Trichophytien in Japan. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. Vol. 6. 1925. **竹谷實**; トリコフイトンプルプレウム に因る頭部白癬. 皮. 第26卷. 1926. **谷口祥**; サブロオ氏の所謂 トリコフイトングラブルム に依る頭部白癬菌病に就て. 愛知醫學會雜誌. 第31卷. 1924. **田代登**; チエルズース氏禿瘡に續發せる白癬性著癬の1例. 皮. 第26卷. 1926. **東京府編纂**; 大島概觀及び八丈島概觀. 1929. **東京府編纂**; 小笠原島概觀. 1930. **Weidman**; Laboratory aspects of Epidermophytosis. Arch. of Dermatol. a. Syphilol. Vol. 15, 1927. **Whitfield**; Unusual trichophytic infection. Lancet, July. 1908. **山田弘倫**; 日本に於ける白癬に就て. 單行本. 1912.

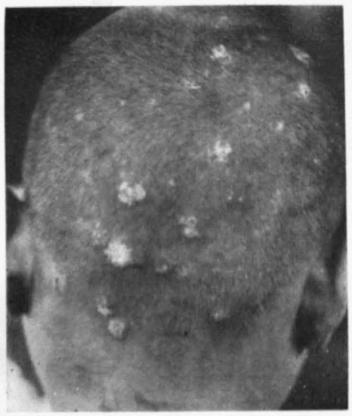
(皮. は皮膚科泌尿器科雜誌を示す)

第 1 圖
(頭部淺在性白癬)



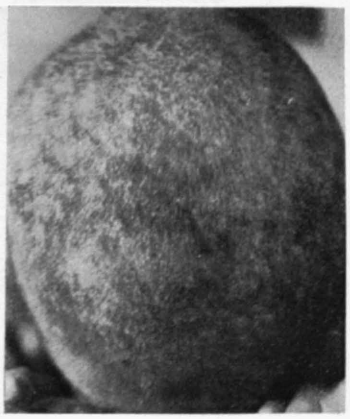
第 2 圖
(頭部淺在性白癬)

第 3 圖
(頭部淺在性白癬)

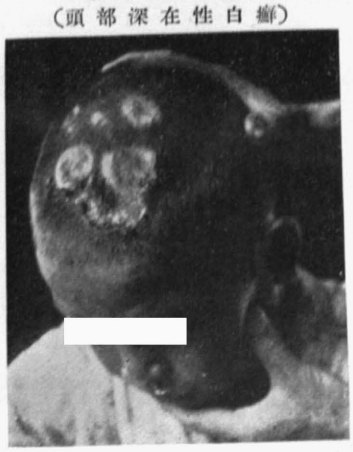


第 4 圖
(頭部淺在性白癬兼爪甲白癬)

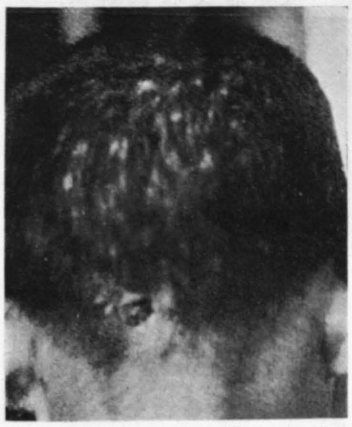
第 5 圖
(頭部淺在性白癬)



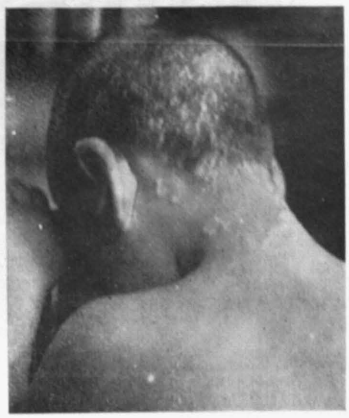
第 6 圖
(頭部深在性白癬)



第 7 圖
(頭部深在性白癬)

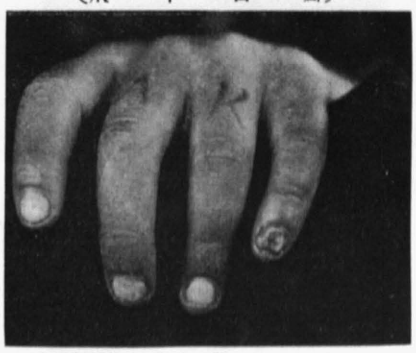


第 8 圖
(小水疱性斑狀白癬)

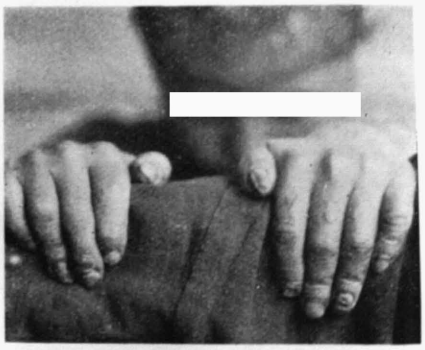


第 9 圖
(輪廓狀濕疹性白癬)

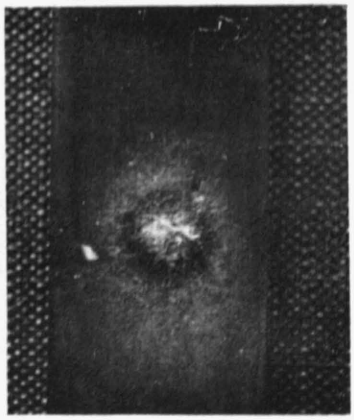
第 10 圖
(爪 甲 白 癬)



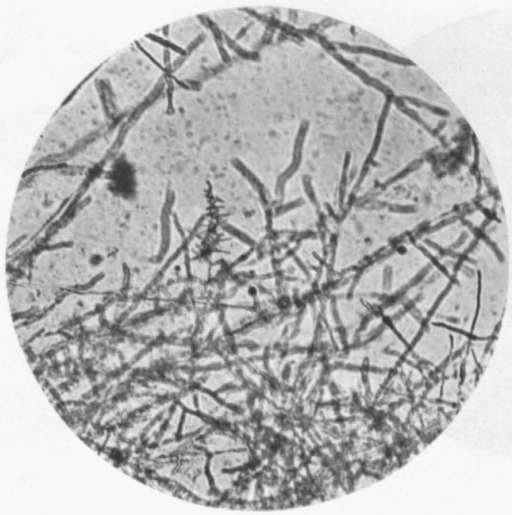
第 11 圖
(爪 甲 白 癬)



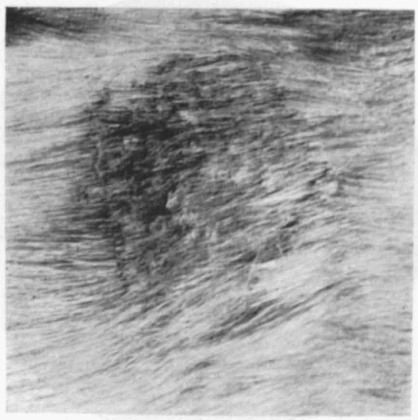
第 12 圖
(膽脂色菌マ氏初代培養基)



第　13　圖
（臙脂色菌懸滴培養）

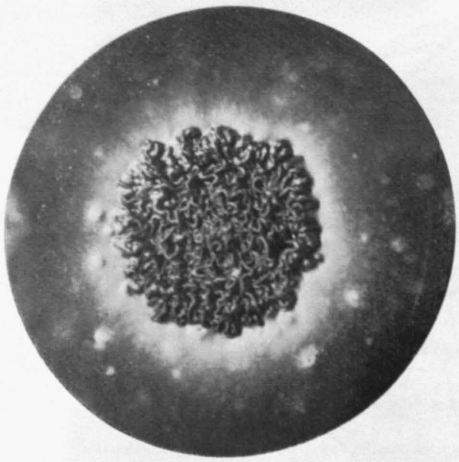


第　14　圖
（猩紅色菌移植海猴）

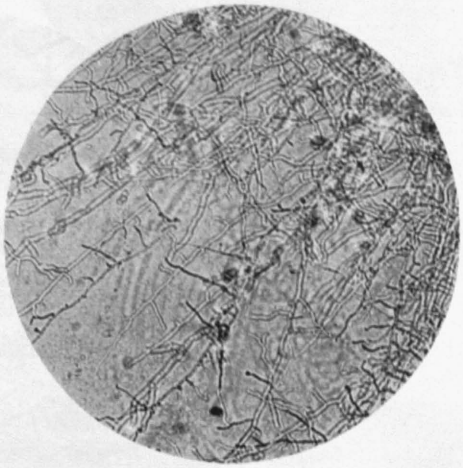


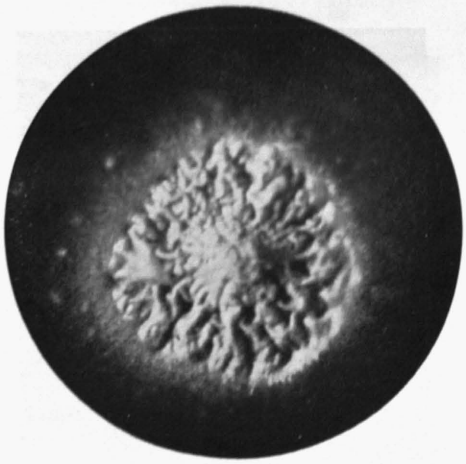
第　15　圖
（菫色菌病毛）

第 16 圖
(菫色菌巨大培養)



第 17 圖
(菫色菌懸滴培養)



第 18 圖
(禿滑菌マ氏初代培養基)

第 19 圖
(禿滑菌巨大培養)